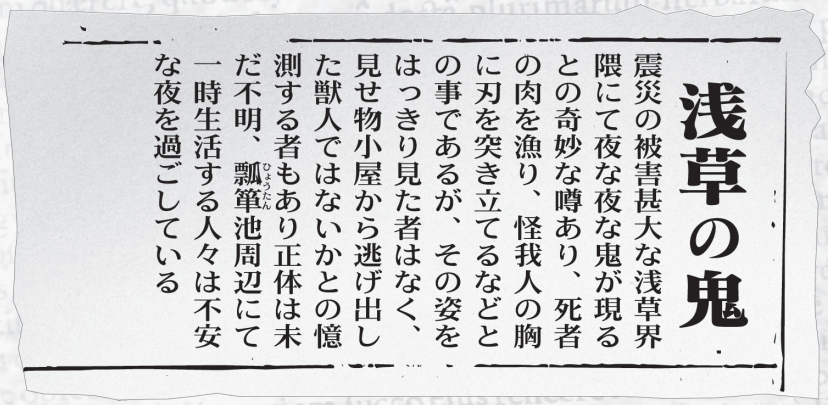
Player Handouts

【クトゥルフ神話TRPG クトゥルフと帝国】

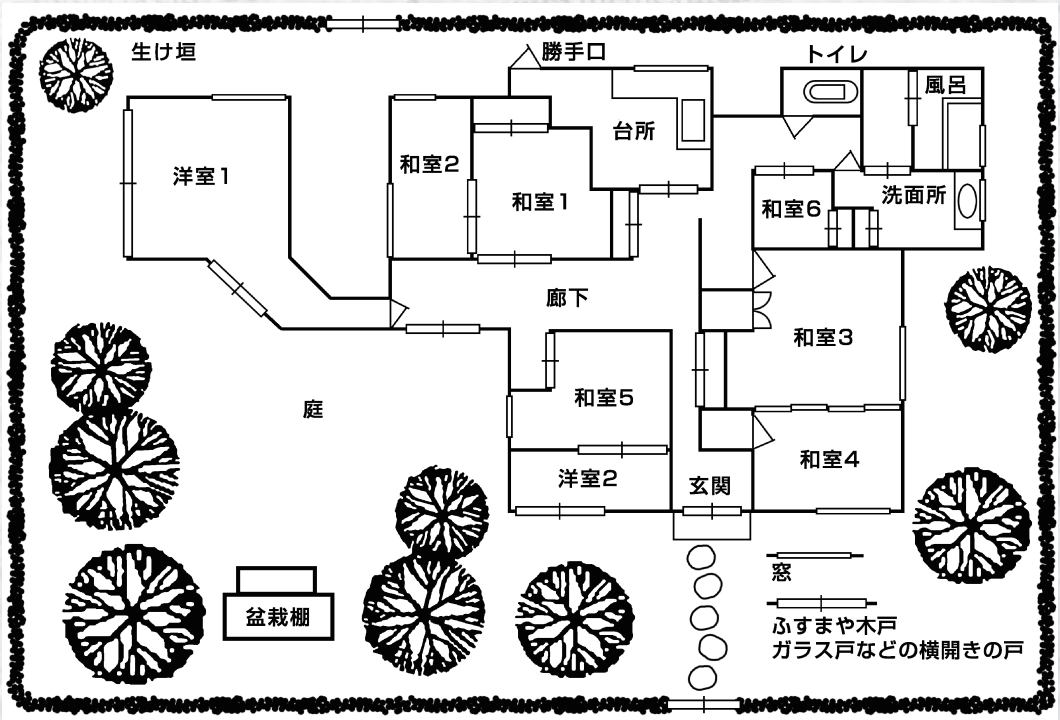
補遺：プレイヤー資料



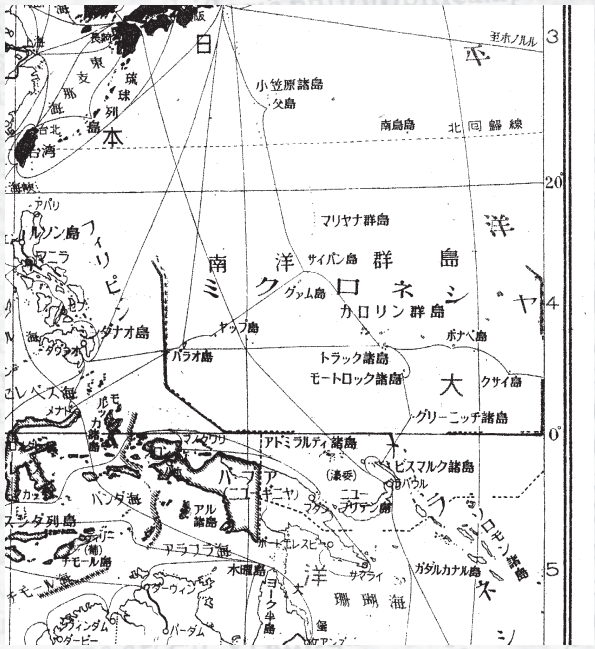
浅草の鬼

震災の被害甚大な浅草界隈にて夜な夜な鬼が現るとの奇妙な噂あり、死者の肉を漁り、怪我人の胸に刃を突き立てるなどとの事であるが、その姿をはっきり見た者はなく、見せ物小屋から逃げ出した獣人ではないかとの憶測する者もあり正体は未だ不明、瓢箪池周辺にて一時生活する人々は不安な夜を過ごしている

（浅草十二階 プレイヤー資料「新聞記事」）



（銀座うずまき「四ッ谷の屋敷」）



（ポナペの摩人琥「ポナペ島近海地図」）

（一通目）

元気にしているかね、沙夜香。

私も東京に戻りたいのはやまやまだが、ポナペでまったくの新種を見つけた。この島はいったいどうなっているのか……霧の向こうの平原にしか、アレはいないのだ。

私の蝶は、木に大きな繭を作る。繭を放置しておけば、その中に琥珀ができる。素晴らしい琥珀だ。輝きとともに発せられるメロディは私を魅了してやまない。

首狩り族どもうまくやっている。そちらの方は心配ない。ヤツらは島の神を恐れている。今や、ヤツらは私の従順な下僕だよ。だが、いや、ひょっとして、ヤツらもこの世界の者ではないのかも知れない……。

（二通目）

元気にしているかね、沙夜香。

私はこの島から離れられない。新種の蝶はそれほどに素晴らしい。現地で知り合った邦人や外国人も、私の琥珀や蝶にほれぼれするのだ。

だが、いくらカネを積まれても、出来のいい琥珀は手放すものか。出来損ないはいくつか商人に売ってやったが。

琥珀を見せるのは気分がいいが、蝶を見せるのは勇気が要るよ。みんなが蝶を好きなわけではないし、繭はたいていの人は嫌うからね。

何にせよ、もっと美しい素材が必要だ。素材が良ければ、より美しい琥珀ができるとわかった……。

（三通目）

元気にしているかね、沙夜香。

元気にしていないと、以前に何度も書いたはずだ。しかし、私もお前に島は離れられないと、以前に何度も書いたはずだ。

会いたい。

沙夜香、ポナペに遊びに来なさい。友達も連れてくるといい。何人でもいい。ここは楽園だ。

お前もきっと気に入って、一生、暮らしたくなる……いや、一生ではなく永遠だ。実は私は不老不死の秘密を見つけたのだ。沙夜香も島に来れば、不老不死にしてやることができる。

追伸：島に来るなら、必ず女給のリヨンを連れてきなさい。私にはあの娘が必要だ。

（ポナペの摩人琥 プレイヤー資料1「男爵からの手紙」）

ご無沙汰しています。甲小路家で昔、お世話になった鍬形穣です。
最近、ある筋からポナペに父君が逗留中という情報を入手しました。
久しぶりに会いたかったのですが、どうやら引きこもっておられる
ようで、まだ面会できていません。彼の様子はおかしいと思います。
しかし父君からは、沙夜香お嬢さんかその知人がポナペに来ること
があれば、島まで案内するよう言いつかっています。
私はしばらく前にトラック島に赴任してきました。こちらの地理や
情勢に明るく、陸軍の将校ですから、顔も利きます。
南洋へお越しの際はぜひご連絡ください。ポナペまでご一緒します。
こちらは治安が悪く、人食い人種や首狩り族などが跋扈するところ
もあります。くれぐれもお気をつけください

（ポナペの摩人琥 プレイヤー資料2「少佐からの手紙」）

（ページ1）
あの蝶のような蜘蛛のような生き物は何なのだろう？
しかも、ここは私のいた世界とは違う。
この島に平原はなかったはずだ。どこか別な幻の世界
にいるようだ。しかし、ポナペに戻ろうとすれば戻れるよ
うなので、問題はない。
今はあの蝶蜘蛛が作り出す繭の方が問題だ。繭から出
てきた琥珀に、私は正気を失いそうになった。

（ページ2）
蝶蜘蛛との契約が成立したように思える。アレには知
性があって、私の目的を理解している。
人をおびき寄せ、アレにエサとして与える。そうすると
私は琥珀を得られる。

蝶蜘蛛を恐れている首狩り族も手なづけた。ヤツらは
蝶蜘蛛を神、私を神の代行人と認識しているようだ。

（ページ3）
首狩り族を使って、人間を繭の森に追い立てることに
した。この地に足を踏み入れた者は、私の眼鏡にかなえば、
摩人琥になれる。そうでない者は、ヤツらに首を狩られる
という寸法だ。

（ページ4）
私のコレクションを人に自慢したいものだ。日本人で
もいいが、白人ならもっといい。なるべく色の白い、肌の
美しい客人がもっと欲しい。
多くの者は琥珀を見たあと、自分も琥珀になってしま
う。つまり、常に新しい客人が必要というわけだ。

（ポナペの摩人琥 プレイヤー資料3「男爵の日記」）